

ヤングケアラー実態調査の実施状況について

こども家庭課

1 調査概要

(1) 目的

ヤングケアラーと思われる子どもの実態を正確に把握するため、県内の小中高生に対する実態調査を教育委員会等と連携して実施し、本県における支援体制の在り方を検討するための資料とする。また、実態調査を通じて、学校現場等でのヤングケアラーに関する問題意識を喚起するとともに、相談窓口の周知を図る。

(2) 対象

県内の小学校6年生、中学2年生、高校2年生の全数及びその学校(428校)

(3) 方法

パソコン、タブレット、スマートフォン等の通信端末を用いてWeb上で回答
※Web回答が困難な場合は、アンケート用紙を送付し筆記式で対応

(4) 期間

令和4年9月から令和5年1月

2 調査結果(速報値)

(1) 回答状況

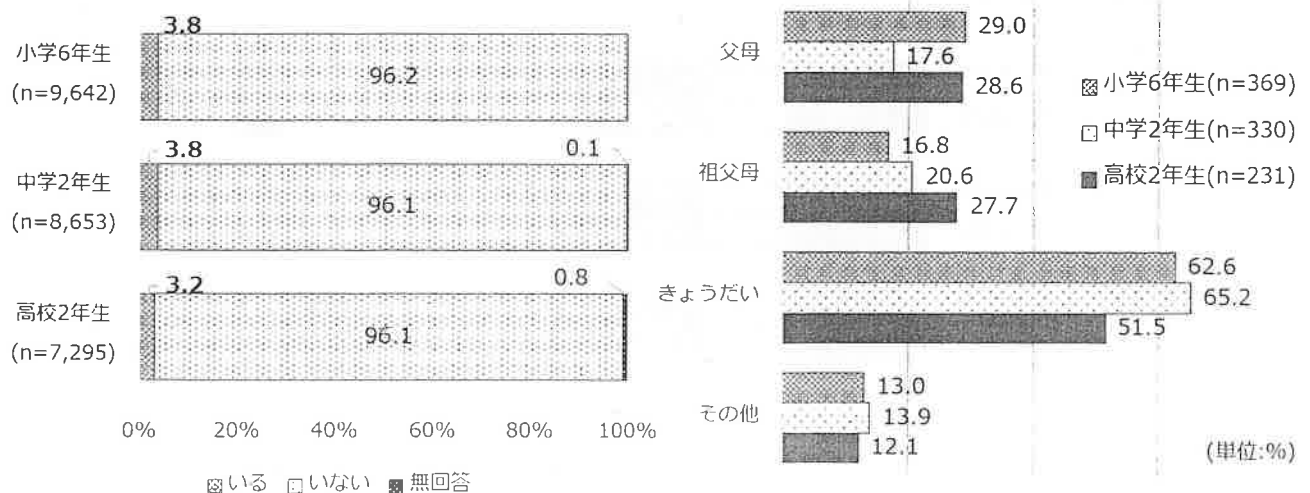
(単位:人)

	小学6年生	中学2年生	高校2年生
調査対象	10,163	10,046	9,179
有効回答数	9,642	8,653	7,295
回答率	94.9%	86.1%	79.5%

(2) ヤングケアラーの実態

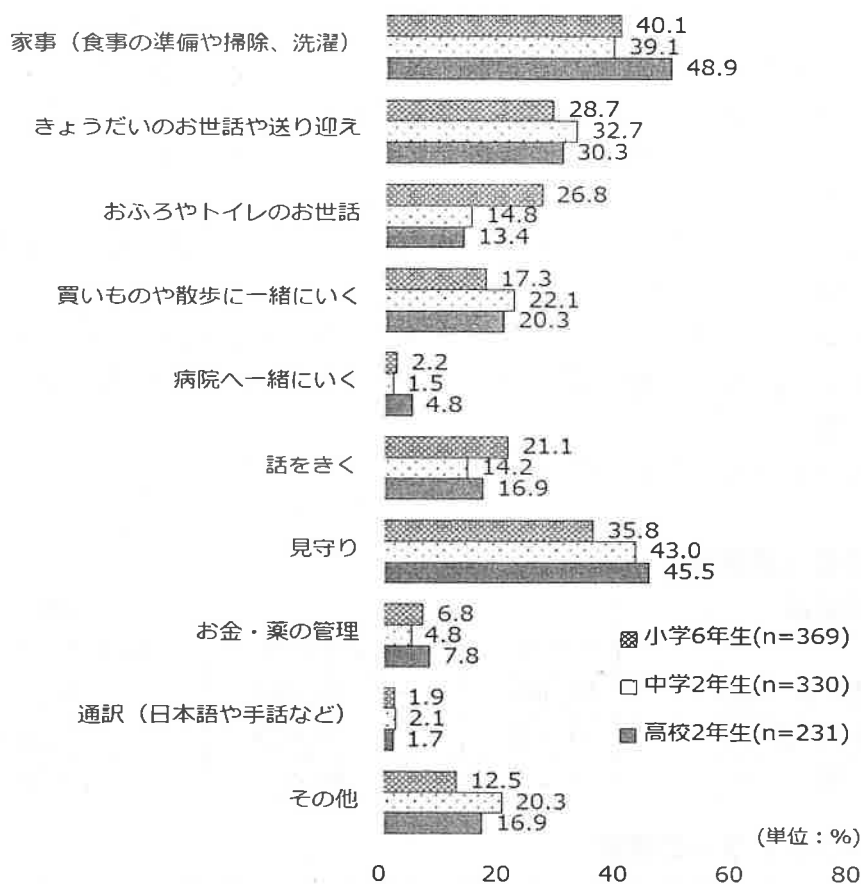
- 世話をしている家族が「いる」と回答した割合は、小学6年生が3.8%、中学2年生が3.8%、高校2年生が3.2%となっている。
※ 全国調査結果(小学6年生:6.5%、中学2年生:5.7%、高校2年生:4.1%)
- 相手はいずれも「きょうだい」が最も多く、次いで「父母」、「祖父母」の順となっている。

【図①:世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒及びその相手】



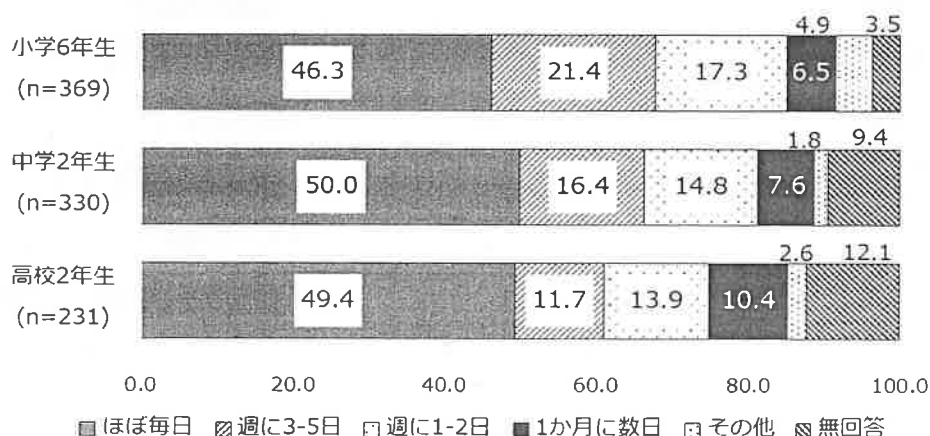
- 世話の内容について、「食事の準備や掃除等の家事」が小学6年生は40.1%、中学2年生は39.1%、高校2年生は48.9%、「見守り」が小学6年生は35.8%、中学2年生は43.0%、高校2年生は45.5%となっている。

【図②:世話の内容】



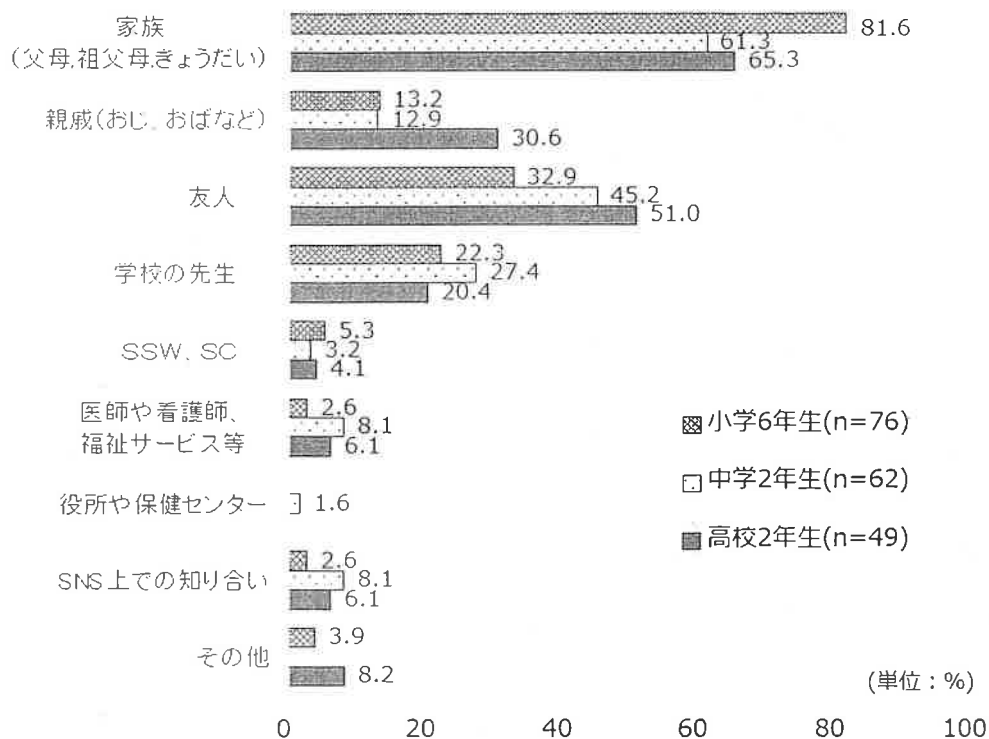
- 世話の頻度について、「ほぼ毎日」が小学6年生は46.3%、中学2年生は50.0%、高校2年生は49.4%となっており、平日に世話に費やす時間は、「3時間未満」が小学6年生は58.8%、中学2年生は48.5%、高校2年生は45.9%となっている。なお、「7時間以上」は小学6年生が8.4%、中学2年生が11.8%、高校2年生が10.4%いる。

【図③:世話をしている頻度】



- 世話によりできていないことについて、「特にない」が小学6年生は65.9%、中学2年生は53.0%、高校2年生は51.5%となっている。なお、「宿題や勉強の時間がとれない」は、小学6年生が10.6%、中学2年生が13.0%、高校2年生が9.1%となった。
- 誰かに相談したことがある人は、小学6年生が20.6%、中学2年生が18.8%、高校2年生が21.2%であり、その相談相手としては「家族・友人」の割合が多くを占め、次いで「学校の先生」が小学6年生は22.3%、中学2年生は27.4%、高校2年生は20.4%となっている。医療や福祉サービス等の地域の支援者への相談割合は低い状況である。

【図④：相談相手】



- 相談していない理由として、「相談するほどの悩みでない」が小学6年生は69.3%、中学2年生は71.5%、高校2年生は71.5%となっている。なお、「家族のことを話したくない(知られたくない、偏見を持たれたくない)」が小学6年生は7.1%、中学2年生は27.6%、高校2年生は17.7%となった。

3 今後の対応

調査結果の詳細を分析した報告書を年度内に公表するとともに、明らかとなった実態を踏まえ、介護や看護、生活困窮といった様々な問題を抱える子ども・若者を早期に発見し、適切な支援機関につなげられるよう、多機関連携によるヤングケアラーへの支援体制を整備する。